

法蔵 350号 お盆号

・順信寺の予定

\*八月十五日午前十時三十分より・八月十六日午前十時三十分より

「孟蘭盆会法要（うらぼんえほうよう）」（三密に注意して行います。）

\*八月十七日午後一時三十分より

「歌登地区出身戦没者並びに全戦争犠牲者追悼法要」

「十七日の法要は、御志納は遠慮致しております。

「人は誰も皆、温かく重たい存在である」。御焼香くださいますよう御願ひ申し上げます。」

\*八月二十日午後六時より

「万灯会法要（まんとうえほうよう）」

（万灯会は、本堂・納骨堂で読経いたしますが、今年も新型コロナウイルス感染対策で本堂での密集をさけるために、灯籠は仏教青年会で幌別川に運びます。6時からの法要には遠慮いただきますようお願い申し上げます。7時より幌別川にて満灯会いたしますので、ご覧になりたい方は、直接に歌登橋の方へお越しいただきますようお願い申し上げます。また天候等により変更する場合がございますので、御不安の方は、お寺の方へご相談くださいますようお願い申し上げます）

「私が無駄に過ごした今日は、

昨日死んだ人が痛切に生きたいと願った一日である。」

（ある高校生のことば）

「無駄」ということですが、これは効果がなかった、結果が出なかったということではなくて、「ここに在らず」という有り方であると教えてくれた先生がおられました。つまり、勉強しながら遊びのことを思い、遊びながら勉強のことを心配するという有り方です。

「良く学び、良く遊ぶ」という言葉があります。一生懸命はたらき、思いっ切り楽しむ、そのような生き方をしたいものです。

\*八月二十八日午後一時より 親鸞聖人御命日のお参り

\*九月三日（金）午前八時三十分 大掃除

報恩講に向けて順信寺の大掃除を予定しております。御門徒の皆様のお協力を御願ひ申し上げます。

お盆とは「孟蘭盆」といい、言語の意味としては諸説ありますが、「倒懸」と漢訳され、逆さに吊るされたような苦しみを表すものとされてきました。

お盆の行事は、「仏説孟蘭盆経」というお経に説かれている釈尊のお弟子・目連尊者の物語に由来するものです。

神通第一と呼ばれた目連尊者は、亡き母を案じ、神通力によって母の姿を探し求めます。すると、母は餓鬼の世界に落ち、苦しんでいました。目連尊者は悲しみの中、何とか母を助けたいという思いで、食物を母のもとへ運びます。しかし、母のもとではすべてが火や炭に変わってしまうのです。どうすることもできない目連尊者は、釈尊のもとに行き尋ねました。すると釈尊から、安居の最後の日、百味の飲食を盆に盛り、仏や菩薩や僧などの聖衆に供えるよう教えられます。

目連尊者がそれを実践すると、母は餓鬼道から救われたといいます。

「自分一人で大きくなったような顔をして」と子どもにも言った親が居るようですが、目連が何故、尊者と言われたのか、それは自分がここまでに至る過程で餓鬼道にまで落ちても支えてくれた世界があったということに目覚めたからではないでしょうか。自分に願いをかけて、支えてくれた世界があったことに目覚めることがお盆の大切なことではないでしょうか。

お盆にあたり今一度大切なことを頂きなおすことができることを願います。

○ 昭和五十七年度 孟蘭盆号の「順信寺だより」を見つけました。この年の秋、九月二十八日に前住職は亡くなっていますので、最後のお盆のお便りになったのだと思います。

「良い、たのしい、和やかな、お盆のお過なごしを 切に 念じ申し上げます。」とありました。夏休みで家族が久しぶりに集まる嬉しさ、楽しさ、そして賑やかさを感じます。次のような形で載ってありました。

### 道標（みちしるべ）

昨年より、以前から希望して居ました掲示板を本道前の道路際に設置する事が出来ました。軽金属性の立派なものであります。大谷派本山と致しましても道行く人に無言の呼びかけをしている掲示板には関心を持っている教化方法の一つであります。

住職といたしましても少しでも貴い人生のお役に立ちたいと思ひまして、感銘あるものと思われる語句を掲示させていただいて居ります。参考迄に記させていただきます。

七月は 「先人は樹を植え 後人は涼をうる」

八月は 「人生はやり直しは出来ないが、見直す事は出来る」…金子大栄先生…

夏のたのしいお盆、ゆったりと心の落ち着くお盆、悲喜交流、先祖まつりのお盆

事故のないように、たのしくお過なごしを念じお祈り申し上げます。（住職子）

「この年の秋に前住職はこの世を去りました。人と人が出会うことを喜びとする人生を歩んだのではないかと思ひました。新型コロナウイルス問題はあるのですが、お互いハグし合うような人間の交わりをしていきたいと思ひました。」

「本当の旅の発見は新しい風景をみるのではなくて、

新しい目を持つことにある。」

（マルセル・ブルースト）

「…貧しくて何も持っていないと言っている子たちが、発想の転換というか、めちゃすごいカッコいいもの。しかもジャージだけを着てかっこうつけるみたいだね。今あるもので何とかしたいというか。だから、あれがない、これがないと無い物ねだりして、人生に絶望することは簡単だけど、ちょっと角度を変えてやったら、今あなたがいるその場所が世界で一番面白い場所になるのではないか、そんな考え方を与えてくれるのがラップなんですね。」

（サンガ172号 今ここが一番！ ライムスター牛多丸より）

「ライムスター牛多丸さんは、ラップを通してもの見方を学んだようです。私たちも、いろんな事を学び、そして人との出遇いを通して自分自身を学び、誰でもない自分を、いつでもない今を、どこでもないここを、生きていきたいと思ひます。」

・忠峰コーナー

「永遠の 別れを惜しむ 山緑」

「真夏来て 甚平着る日の 少なくて」